鷹南学園三鷹市立中原小学校　令和８年度　【５年生】　授業改善推進プラン

	R7授業改善推進プランの検証	学習状況の現状と課題	指導方法の課題と授業改善策
国語	文章構成例の提示や自己評価の導入により、構成を意識して記述する力や意欲が高まった。一方で、主語・述語を正しく対応させた文の作成や、言い換え活動で得た多様な語彙を文章中で適切に使いこなす力には個人差が見られる。	特に「読むこと」や「記述式」に課題が見られる。文章の内容を正しく読み取り短文で簡潔にまとめることや、理由・根拠を明確にして書くことに苦手意識があり、主語・述語を適切に対応させた文章の記述力に大きな個人差がある。	読み取り内容を整理するワークシートを活用し、スモールステップで自分の考えをまとめる支援を行う。文章を書くことに前向きになれるよう短文作りから段階的に指導し、主語・述語の対応など既習の文法事項を常に確認する。ペアや全体での対話を通して根拠を明確にし、相互に推敲し合う活動を位置付ける。
算数	思考過程を図や文章で説明する機会や毎時間の振り返りにより、自己の理解状況を把握するメタ認知の態度が育ちつつある。しかし、複雑な文章題における立式の意味理解や、発展的な問題へ粘り強く挑戦する意欲の向上には課題が残る。	「数と計算」や「変化と関係」に課題がある。除法や小数計算の習熟不足に加え、問題場面の数量関係や意味を正確に把握できず、何を問われているのか読み取って適切な立式を立てたり、根拠を筋道立てて説明したりすることに弱さが見られる。	計算の習熟を図る反復演習の時間を十分に確保し、計算チャレンジ等で基礎的計算力の確実な定着を図る。ポスターやICT等で問題の場面や条件を視覚的に分かりやすく提示し、数量関係の図式化を徹底する。なぜその式になるのか思考過程を図や言葉で説明し合い、比較・検討する対話的な解決場面を設定する。
社会	ワークシート等でゴールイメージを示し「問い」を工夫したことで、見通しをもって主体的に調べる児童が増加した。一方で、調べた複数の資料や事象を比較・関連付け、単元を通して探究的な課題意識を持続させる力には継続指導が必要である。	様々な事象への興味・関心は高く調べ学習には意欲的に取り組むが、調べた内容をまとめるだけで終わってしまう傾向がある。提示された写真やグラフ、複数の関連資料から共通点・相違点を読み取って比較・検討したり、社会的な課題を自分事として捉えて自分の考えを導き出したりすることに依然として課題が残る。	単元の導入で学習課題を自分事として捉えられる導入の工夫を行う。複数の関連資料（写真・図・グラフ等）を意図的に提示し、思考を整理・比較できるワークシートを活用して多角的に読み取らせる。調べた事実と自己の考えを区別して整理させ、小グループでの話し合いを通して考えを深め合える手だてを講じる。
理科	生活体験と関連付けた予想・考察の指導や意見交流により、実験結果を分かりやすく整理して説明できる児童が増えた。しかし、実験データや結果から規則性を見出し、科学的な根拠をもとに推論・考察を展開する力には課題が残る。	実験や観察には極めて意欲的で、理科的用語や基礎的知識の定着は進んでいる。しかし、実験結果から必要な情報を取り出して比較・関連付けて読み取ることや、得られた事実を基に規則性を見出し、科学的な根拠をもって予想や仮説に対する考察・推論を論理的に組み立てて表現することには課題が見られる。	単元計画の中に理科の見方・考え方を働かせる場面や、振り返りの時間を明確に位置付ける。結果を整理・比較しやすいノート指導やワークシートの工夫を行う。実験結果と日常生活の事象を結び付け、小グループで科学的根拠を基に話し合い、互いの考えを広げ深めながら結論を導き出せるよう指導する。
音楽	毎時間のリコーダー確認や聴き合いの場を設定したことで、基本的なタンギングや運指の定着に成果が見られた。鑑賞における感じ取りの言語化は向上したものの、音楽を形づくる要素（旋律・強弱など）を意識して主体的に表現を工夫する力に課題が残る。	歌唱や器楽活動に前向きで、拍や旋律などの特徴に気付いたりパートの役割を意識して合奏したりすることができている。しかし、鑑賞活動において曲の工夫を読み取って深く考えたり、これまでに習得した知識や技能（旋律・強弱・音色等）を自らの思いや意図と結び付けて主体的に表現を工夫・発揮したりすることに課題がある。	様々な演奏や歌唱の仕方を実際に試す場面を繰り返し設定し、音色の違いや響きについて実感をもって考える。音楽を形づくる要素を捉える言葉の選択肢を提示し、感じ取ったことの言語化を支援する。既習の知識や技能を活用して主体的に表現の工夫を選択・試行できるようスモールステップで指導する。
家庭科		初めての調理実習や裁縫実習に興味をもち、意欲的に取り組んでいる。家庭での実践課題等を通して家族の一員としての自覚が芽生えつつあるが、家庭内でやってもらうことに慣れており、習得した知識や技能を自発的に生活へ生かそうとする姿勢や、課題解決に向けて工夫する実践力にはまだ個人差が大きい。	ペアやグループ活動、学習用タブレット端末での手順動画等を効果的に取り入れ、技能差に応じた個別の支援を充実させる。自分ができることを家庭でもやってみたいという意欲を引き出すため、実生活と結び付けた具体的な課題を設定する。実習後の振り返りを通して自己の成長を実感させ、家庭での実践へとつなげる。
図画工作	試作や練習の確保、学級内でのアイデア共有により、用具への不安が減り安心して制作に取り組む姿が見られた。一方で、手本や参考作品の模倣から発展させ、材料やテーマに応じた独自の発想を広げて表現する力には個人差が大きい。	制作活動を楽しみ、意欲的に取り組む児童が多い。一方で、教師の指示や説明を正確に聞き取って理解することに個人差があり、作業の進度に大きな開きが生じている。また、初めて扱う用具や材料の扱いに不慣れで、参考作品の模倣から一歩踏み出し、材料の特性を生かして自分なりに工夫・発想を広げることに課題がある。	道具の安全指導を徹底し、安心して作業に集中できる環境を整える。多様な参考作品や技法例を視覚的に提示して制作の見通しをもたせるとともに、試作や練習の機会を確保する。制作の途中で友達の作品を鑑賞し合う時間を意図的に設け、多様な発想や工夫のよさに触れることで、児童自らの表現意欲を高める。
生活			
体育	ICT機器による動きの視覚化や振り返りの確保により、技能ポイントを意識して意欲的に取り組む姿が見られた。グループ活動による関わり合いは深まったものの、児童間における基礎的な運動技能の差の解消が今後の課題である。	課題解決的な学習に関心をもち、自己のゴールに向けて意欲的に取り組んでいる。しかし、毎時間の学習目標を明確にして主体的に取り組む児童とそうでない児童との差が大きい。また、自己の目標が定まっている児童であっても、課題解決に向けた視点が散漫になり、技能向上のポイントを絞り込めない課題がある。	学習用タブレット端末を活用して自他の動きを撮影・提出し、教師側が個々のつまずきを的確に把握して助言できるようにする。単元や時間の目標・技能ポイントを視覚的に明確に提示する。ペアやグループで動画を見合い、互いの良さや課題を伝え合う協働的な学びを位置付けることで、課題解決の視点の定着を図る。
外国語	ALTとの連携や絵カード・ジェスチャーの活用により、苦手意識をもたず楽しくやり取りする姿勢が育った。一方で、言葉以外の推測力に頼る場面が多く、基本的な単語・表現の確実な習得や、主体的に伝え合おうとする態度に差が見られる。	ゲームやアプリを活用し、恥ずかしがらずに楽しくコミュニケーションを図ろうとする姿が見られる。しかし、児童自身が英語を話す必然性を感じる機会が不足している。また、アルファベットを四線に正しく書くことや、これまでに学習した基本的な単語・連語・既習表現を実際の対話で使いこなすことには依然として課題がある。	スモールトークを活用して話すことへの心理的ハードルを下げ、児童同士やALTとやり取りする必然性のある場面を日常的に設定する。四線ノートを用いた視覚的で丁寧な筆記指導を継続する。授業の終末にルーブリックを用いて振り返りを行い、対話を通して身に付いた知識や技能を児童自身が実感できるようにする。
道徳	グループ対話の時間を充実させたことで、友達の多様な考えに共感しながら自分の考えを広げる姿が見られた。しかし、授業で深めた道徳的価値を、日常の集団生活や他教科の場面で自発的な行動として実践に移す力には課題が残る。	資料を読んで登場人物の心情を捉え、友達の考えを聞いて理解を深める児童がいる一方で、考えを深められない児童との個人差が大きい。特に、教材の中で心情が揺れ動く場面や意見が二極化するような葛藤場面において、他者の考えを手がかりに自分の考えを広げたり、多角的に物事を捉え直したりすることに課題がある。	心情が揺れる場面や多面的な価値観が問われる場面を中心に教材を見直し、児童が主体的に考えたくなる発問を工夫する。自分の考えをもった上でペアやグループで交流する時間を確保し、友達の発言をつないで多角的に物事を捉える。授業の終末には自分を見つめ直し、実生活での行動につなげる振り返りを位置付ける。